森林整備事務所情報！

昨秋、猛威を振るった台風による被害

９月 15 日から 16 日にかけて、本県に接近した台風 18 号の影響による大雨は、県内においても大きな災害を引起しました。中部森林整備事務所管内においても複数の地点で２日間の総雨量が 600 mm（１年間に降る雨の約 40%）を超え、近年経験のない林地災害が発生しました。その規模は林道被害が総延長 2,924m、林地荒廃で被害箇所 43 カ所に及びました。

林道の路体流出箇所

今回のような豪雨の発生は近年増加の傾向にあり、森林をより健全に保つため適切な間伐施業が求められます。特に搬出間伐は、山腹崩壊等の災害発生時に流下する流木数を少なくし、流木による被害を軽減する効果がありますので、積極的な取り組みをお願いします。（房野）

山腹崩壊箇所

森林組合の合併について

滋賀中央森林組合が発足しました！

森林・林業を取り巻く厳しい状況の中、森林所有者の負託にこたえうる健全な経営に向けて平成 14 年～15 年度に「滋賀県森林組合改革プラン」が策定され、中核組合となる広域合併を含めた組織の再編強化を図るとされているところです。これまで紆余曲折がありつつも最終目標の１県１組合をめざし、各地で組合の再編整備が進められてきました。

その中で、平成 25 年 12 月２日、甲賀森林組合、甲賀市信楽森林組合および日野町森林組合の３組合が合併し、滋賀県中央森林組合が新たに誕生しました。湖南市、甲賀市、日野町の２市１町を区域とする広域森林組合で、県行政の管轄も甲賀森林整備事務所、中部森林整備事務所にまたがり、森林面積が約 4 万 ha、組合員数が 6,405 名、出資金 1 億 4 千万円といずれも県内最大となっています。

新たにスタートしたばかりですが、地域の森林管理の主体として森林経営計画の策定や施業集約化の推進等県内森林組合をリードする組合として今後益々の発展が期待されます。（田上）

発足式のテープカットの様子。

編集後記

森林整備事務所情報で取り上げたように、今年度は台風被害が大きく、被害発生後は林道災害復旧に事務所全職員で対応にあたりました。木材の需要が高まっている中で、一刻も早く復旧できるよう職員一同頑張ります。

琵琶湖森林づくり基金
もりんちゅの発行は、「琵琶湖森林づくり県民税」を活用して実施しています。

もりんちゅ湖東

2013. Vol. 12

滋賀県中部森林整備事務所　〒527-8511　滋賀県東近江市八日市緑町7-23　☎0748-22-7718　fax0748-22-8798

こんな活動やってます

世代間の交流による学びの提供

多賀町立大滝小学校は、約 6ha の学校林で森林学習に取り組んでいます。学校の OB から構成される後援会の役員が小学校の現職教員と協力しながら指導に当たっています。役員の中には仕事などで忙しい方もおられますが、下刈りや境界確認などの作業に自ら取り組み、児童の森林学習のフィールドを管理しています。原木販売による収益や会費を財源とし、組織として自立した運営を心がけています。

平成 25 年春には、6 年生が雪起こしの作業を体験し、11 月には 5 年生と 6 年生の児童が人工林について森林学習を行いました。当日の学習では、児童から「シカ以外の林業被害はあるの？」「80 年生でどれくらいの高さになるの？」などといった専門的な質問がされました。後援会では、今後も学校林のある壺と萱原で場所を入れ替えながら、森林学習の取り組みを継続していくそうです。山への思いが未来の世代にどんどんとバトンタッチされていけば素敵だと思います。　（中川宏）

児童に森林の話をする後援会会長の森さん

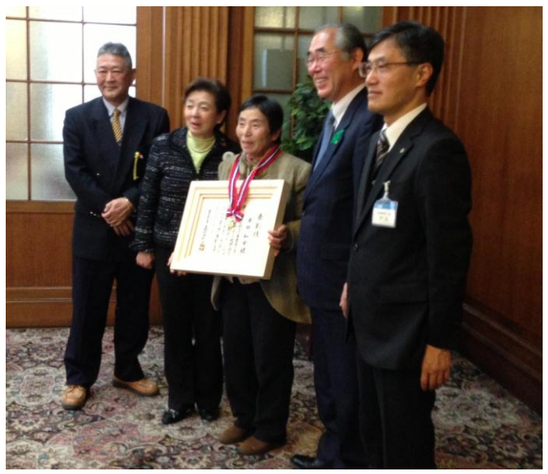
この人に注目！！

林業分野での女性の活躍

平成 25 年 12 月 19 日、日野町の浦田和栄さんが、緑化功労者「シャクナゲ賞」を受賞されました。浦田さんは、嫁ぎ先の両親とともに、山仕事を始めたことが林業に関わるきっかけでした。その後、３人の子どもを育てながら、主に日野町林業研究グループの活動を通して、学校林の整備や子供たちへの環境学習プログラムの支援、シイタケ栽培の学習などに積極的に取り組んでこられました。

特に、NPO 法人と協働で行う森林施業を通して、問題を抱えた若者たちの社会復帰に大きく貢献し、この取り組みは、平成 24 年度の全国林業グループコンクールで林野庁長官賞を受賞しました。今回の受賞式で、決意を新たに頑張ると述べられた浦田さん。今後益々のご活躍が楽しみです。　（中川宏）

立木を伐採する浦田さん。



授賞式での浦田さん（写真中央）

近くの木を使うために

～木材生産･流通の工夫と努力～

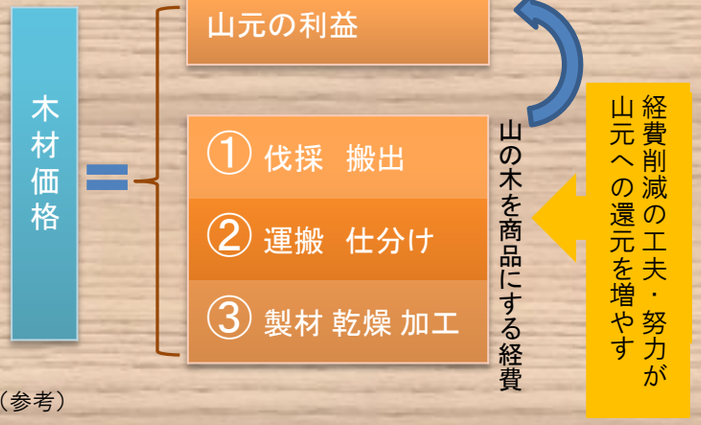
〇近くの山の木を使うことは、近くの森に活力を取りもどし、地域の経済やしくみを活気づけることです。

〇しかし、今の山の木の値段と、長い年月かけて育ててきた木の値打ちにギャップを感じても、価格は市場（買い手）で決まります。

〇山元の取り分は、木材価格から製材品にするまでの色々な経費を引いたものとなります。

〇そのため、出来るだけ山元に還元できるように、生産や流通の多くの段階で、工夫や努力をしています。

◆木材価格と経費・利益の関係



（参考）

◆標準的な柱材（スギ柱材3m）で1m³　80,000円程度

◆スギ柱材用丸太（木材市場）　で1m³　12,000円程度

（ペットボトルの水の販売価格は、1L 100円として 1m³　100,000 円）

①伐採　搬出　　山の現場の取り組み・工夫

永源寺にある東小椋県営林で、東近江市永源寺森林組合が行った搬出間伐の実例

木を余分な手間をかけずに丁寧に、少しでも高値で販売できるよう工夫・努力をしています

Point.1

伐採･造材

木の曲がり具合や太さに応じて適切な長さに切り揃え、木材の価値を高めます。

作業効率を考えて道方向へ伐倒

造材の良し悪しで木の価格は雲泥の差

Point.2

搬 出

機械化により効率的な作業を進めるため、作業道を作っています。

安価で崩れにくい作業道づくり。
去年の台風18号でもほとんど崩れなかった。

伐採した木は、グラップルで集材

フォワーダで林道端の集積場まで運搬

Point.3

仕分・選別

需要先のニーズに合わせて仕分け、検寸後、トラックに積込み、運搬します。
山での仕分･選別が、運搬流通の経費の無駄を省きます。

仕分けの良し悪しで木の価格に差が出る

②運搬　仕分け　　流通の取り組み・工夫

滋賀県森林組合連合会木材流通センター

地域材のストックポイント　東近江市尻無町

地域の材を取りまとめ、規模の利益で勝負！

Point.1

地域の材を集める

各地から出材される材を集積して大きなロットにすることで、安定した取引ができます

Point.2

協定の締結

品質に見合った値段での取引や、需要先の確保のため、大規模工場と交渉し、価格や取引量の協定を結び、山元への安定した還元を行います。

Point.3

仕分けで価値を高める

木材の曲りや太さにより用途が分かれます。工場のニーズに応じた仕分けにより材の価値を高めます。

素材生産の現場の工夫により205m³のスギ･ヒノキ材が出荷され、需要とニーズに応じて出荷先へ運搬され利用されました。

木材流通センター (加工用素材)	110 m³
森林組合加工 (地元事業者向)	80 m³
地元木材市場	10 m³
地元製材所（直送）	5 m³

③製材 乾燥 加工　取り組み・工夫（県外）

Point.　**県外の大規模工場で加工**

太さや長さなど規格に応じて、県外の様々な大規模工場に出荷され、合板や集成材等に加工され、びわこ材製品として里帰りしてきます。

県内では、加工が出来ない木材製品については、近隣の大規模工場に役割を分担してもらいます。

地元の木がびわ湖材製品として里帰り

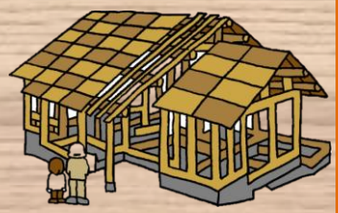
板を張り合わせて作られた大断面の梁桁材（集成材）

びわ湖材の認定を受けた積層合板(ベニヤ板)

③製材 乾燥 加工　取り組み・工夫（地元）

Point.　**木材の燻煙熱処理**

割れ歪みをおさえ、材質を強化する低温乾燥

地元の製材所　東近江市上平木（株)丸和産業

つながりを大切にして地域の製材所で地域材を使うための新たな取り組みが進んでいます